

米沢興譲館高校SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール

令和5年度 第1学年 異分野融合サイエンス 東京探究ツアー

11月30日から二泊三日で1学年 異分野融合サイエンス 東京探究ツアー(TTT)が実施されました。この研修は、地方では体験できない首都圏を中心とした先端的な科学関連施設での研修を行い、科学への興味・関心を一層高めるとともに、科学リテラシーの涵養を図ることを目的としています。人文・社会科学・自然科学あるいはそれらの学際的領域に関連する施設等を訪問し、異分野融合サイエンス (FS) と関連付けながら体験的な学びを深めてきました。



教育は繋がっている

1年 女子

私は3日間のFS東京探究研修を通して、新たな教育の一面に触れることができました。東京学芸大学では、専門分野に精通した教員の育成、教員の働き方改革を促進していることが分かりました。また、東京学芸大学はフラッグシップ大学として教育の変革を引っ張っていることも分かりました。啓林館では、約2.5年間という年月をかけて、一冊の教科書を作っていることを知りました。また、啓林館は批判的思考を大切にしている、それは今の環境問題を解決するためにも身につけるべき能力だということが分かりました。東京子ども図書館では、小さい頃から本を読み、様々な思考力を深め、自分で判断できる力をつけることが大切だと分かりました。これらの研修を通して教育に対する関心がもっと高くなり、教員だけではなく、教育を支える様々な仕事にも視野を広げることができました。

FS東京探究研修で触れた最先端の技術

1年 男子

私はFS東京探究研修でロボット工学を学び人類の未来の可能性を感じました。私達はこの研修内で様々な施設の見学や講義を受けさせていただきました。そのほとんどのものが大変貴重な体験で、普段できないことをしたり、新しい知識を取り入れるとても良い機会になりました。私はコース選択で機械・エネルギー工学と社会コースを選びました。このコースでは、主にロボットについて探求しました。実際に数十種ものロボットを見学してきました。自分の知らないところでこれほどまでにロボット技術が発展を遂げていたのかと驚きを隠すことができませんでした。そのとき私はこれからはロボットが経済、社会そのものを支えていく世界になると確信し、人類の進化を目の当たりにした気がします。正直、私はロボットについて特別な知識は持っていませんでした。しかし、そんな私でもロボットの世界に興味を持ち、これから先の社会について深く考えました。私にとってFS東京探究研修はとても意味のあるものでした。



研修旅行を終えて

1年 男子



私が特に印象に残っているのは谷中銀座商店街でのフィールドワークだ。イタリア人のカップルやブラジルからの旅人、ウクライナの学生など様々な国の人が様々な目的でこの商店街へと訪れる。初めは見ず知らずの地で、しかも海外の方に自らインタビューするには大きな抵抗があった。しかしインタビューを重ねていく度に、人と話すことの楽しさ、そして何とも表現し難い喜びが溢れた。私達の拙い英語に真摯に向き合いお互いに伝えようとしたあの感覚は教室では味わえないだろう。また、呼び込みをするお姉さん、雑貨屋の老婦人、道行く若者までもが笑顔で温かかった。人と人とが関わり合い笑顔を交わすその商店街は私にはとても輝いて見えた。

今回の研修を通して自分がいかに狭いフィールドで過ごしていたか、そして世界がいかに広いかを肌で感じることができた。具体的な学びはもちろん今回感じた新鮮さや感動を大事にしながらかの人生に繋がりたいと思う。

ペンを放棄した学び

1年 女子

私は日本の精神医療の制度やあり方を改善するため精神医療業界でマルチに活躍できる精神科医を目指しており、医療の最先端コースに参加した。このコースでは薬について体験的に学べる施設や東京大学の定量生命科学研究所、そして医師・脳科学者である紺野大地先生のもとを訪れた。紺野大地先生からは、AIによる医療やAIと脳の融合の研究、AIの普及に伴う医師のあり方の変化などの私が今まで想像しなかった新しい医療について徐々に現実味を感じながら講義を受けた。TTT以前は医療について想像すると医師や薬剤師などの限られた関わりしか浮かばなかった。しかし、多面的な学びを通して異分野融合を実感し、基礎研究や工学、政治的な側面からの医療への関わりも考えることが出来るようになった。これにより、今まで医師に固執していたが、医系技官としての将来を考えるようになった。また、それぞれの研修内容のような一見独立しているような要素も身近な要素と結び付けることでSSHの研究テーマの参考にもなった。今回のTTTで各々が次に繋がる学びを得ることができたのではないだろうか。

